

Tranzax

地銀向けセミナー開く

7月に電子債権記録機関の指定を受けたTranzax(東京都、小倉隆志社長)は6日、地方銀行



の関係者らを集めたセミナーを東京銀行協会ビルで開いた。小倉社長は「写真」は「手形の流動性だけでなく、ファイナンスの対象を拡大することが最大の目的」と述べた上で、中小企業の借入金利を下げるサプライチェーン・ファイナンスへの理

解を参加者に求めた。

同社の全額出資子会社であるDenso・サービスが7月7日に金融庁から電子債権記録機関として、メガバンク3行と全国銀行協会に続く、5番目の指定を受けた。

7月からサービスを開始したサプライチェーン・ファイナンスは大企業の信用力を生かし、サプライヤーである中小企業の借入金利を低下させるもの。小倉社長は「金融機関には必要な資金ニーズのあるところに資金を調達する社会的役割があ

る」と述べた上で「われわれのサービスは、事務の効率化を図る従来の電子記録債権と異なり、ファイナンスの幅を広げるものだ」と説明した。

また、来春のサービス開始を目指すPO(パライシス・オーダー)ファイナンスについても「地方銀行が地域企業の資金調達を支援することを手助けする仕組みとなるはずだ」と強調した。